

1. 件名：福島第一原子力発電所におけるALPSスラリーを貯蔵している高性能容器（HIC）の健全性に係る面談

2. 日時：令和3年2月18日（木）17時40分～18時10分

3. 場所：原子力規制庁 6階会議室（テレビ会議システムにより実施）

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、澁谷企画調査官、岩永企画調査官、林田補佐、知見主任安全審査官、
田上係長、市森係員

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

本社 5名

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）より、2021年2月17日の特定原子力施設監視・評価検討会（第88回）に係る面談において原子力規制庁より指摘した特に高線量のALPSスラリーを貯蔵している高性能容器（HIC）の照射制限まで達する算定方法について資料に基づき説明があった。

○原子力規制庁は、東京電力に対し2月17日の面談で示している照射制限まで最短の到達期間の算定には、時間の経過によるALPSスラリーの状態の変化が考慮されているのか説明を求めたところ、東京電力からは、2018年以降の経時変化には考慮していない旨説明があった。

○原子力規制庁は、HIC内のALPSスラリーの状態の経時変化が考慮されていない以上、東京電力が示した積算照射線量評価は適切なものとは言えず、再度測定を行いスラリーの状態変化を考慮した上で積算照射線量の評価を実施する必要があることを伝えた。その上で、東京電力の今後の対応方針については2月22日に予定されている第88回特定原子力施設監視・評価検討会において確認することとした。また、HICの内容物に関するデータの提示を要求した。

○東京電力から了解した旨、発言があった。

6. その他

資料：高性能容器（HIC）の長期健全性確認について（2018年3月23日面談資料）[東京電力]

高性能容器（HIC）の長期健全性確認に係るコメント回答（2018年4月24日面談資料）[東京電力]

高性能容器（HIC）からの漏えい発生時における対応について（2018年6月15日面談資料）[東京電力]

高性能容器（H I C）の温度について（2018年6月15日面談資料）[東京電力]

高性能容器（H I C）の長期健全性の確認について（2018年8月30日面談資料）[東京電力]